

里山コモンズクラブ通信

2017 春号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
く自然を
守り育てる会

里山コモンズクラブ
通信「みなみやま」は
NPO 法人南山の自然
を守り育てる会の活
動案内です。

<http://ina-mina.com/>

●お問い合わせ先

発行・責任者: 梁川貴司、編集・責任者: 小部正人

「筍は竹の子どもなの？」



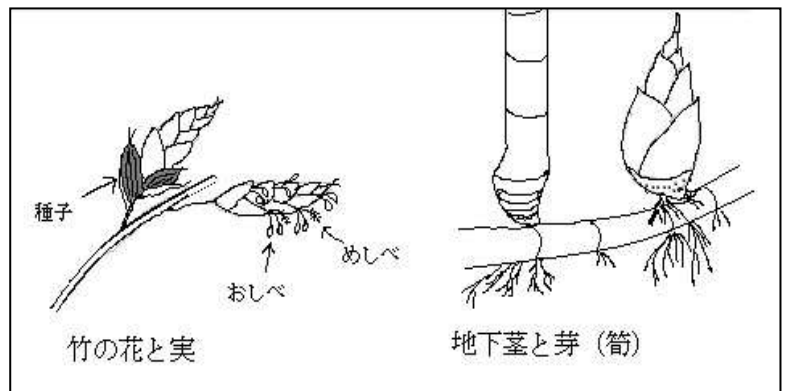
春になると、竹林の中では筍が次々に生えてくる。筍はほぼ3か月で完全に成長して竹となる。けれど、竹の花や種を見る事は殆どないだろう。果たして、筍は竹の子どもとっていいのだろうか？

筍が早く伸びるのは、竹が複数の節ごとに同時に成長できるためだ。これは竹などイネ科を含む「単子葉類」の特徴で、先端のみ成長する他の「双子葉類」とは異なり、成長を終えると後は何年しても殆ど伸びることはない。筍は竹の芽であるが、竹の種から出た物ではない。掘ってみると解るが、筍は竹の「根」のような太い部分から生えている。この「根」のようなものは地下を伸びる「茎」の一種で、筍は茎に出来た「芽」のようなもの。遺伝的には親子より、同じ遺伝子を持つ双子の兄弟に近い。

では竹の花や種は無いのか？ そんな事は無い。竹は何十年かに一度、麦に似た花、そして実と種をつける。ただし、地下の茎で繋がった竹が一斉に花と実を付けると、すべて一年草の様に枯れてしまうと言われる。種はそのまま落ちるが、ネズミなどが食べるので大発生の原因ともなる。一度に大量の種が出来る為、食べつくされることはない。

筍にはチロシンなどアミノ酸や、カリウムなどの有用成分もふくまれる。時間がたつとチロシンはえぐ味のある灰汁(アク)となるので糠や重曹で中和する必要があるが、採取した日なら切った筍を水に付けたり煮こぼしたりするだけで良い。また東京付近の筍では、原発事故後6年で微量の放射能が検出されている(2017年現在約3ベクレル:国基準の30分の1程度)が、これも水に晒したり煮たりする等で流れて半減することが知られている。

筍は全く取らずにおくと、密生して人の立ち入りがたい暗い竹林となる。適度に掘って利用することで、竹林を程よく明るく保つ事にもなるのだ。(桜井)



竹の花と実、地下茎と芽

「自然観察会と竹の子掘り」

当会の活動に賛同し、毎年、寄付をしてくれている「端数倶楽部」と共同で、4月23日に南山にある竹林で自然観察会と竹の子掘りを開催しました。

南山の自然レクチャーでは、現地に生息するオオタカやトウキョウサンショウウオの解説があり、間近まで迫っている宅地造成の中でこれらの生物を保護している活動が紹介され、当日見つけた10センチほどのトウキョウサンショウウオを熱心に観察しました。

竹の子掘りは、3月の寒さで竹の子の生育も心配でしたが、前日の雨と気温上昇により思った以上に育

って、小さいお子さんが家庭用のスコップで掘ったり、お父さんが竹の子掘り専用のクワで根元から掘り起こしたりとそれぞれ約1時間の竹の子掘りを堪能しました。

参加者からは、つぎのような感想をいただき、NPO活動を評価していただきました。
・子供達は、土を掻き分けて竹の子を掘り出すことは、疲れたけど楽しかったそうです。また来年も行きたいと話していました。駅から近いこともあって周辺は大きく開拓されていますが、苦勞して竹林を守られているNPOの活動に感謝いたします。

・里山が徐々に少なくなっていくものの、きちんと保護され、住宅地やスーパー、学校など、市街化と共生している様子が伺われ、関係者のご尽力の賜物と感じました。

端数倶楽部は、その趣旨に賛同する富士ゼロックスで働く人々によって構成されています。毎月の給料と各期の賞与の『端数』(100円未満の金額)に個人の自由な

意思(1口100円×N)をプラスし拠出してもらい、会員が必要と考える分野/テーマで、その資金を有効に役立てるように会員により運営されています。(小部)



残された竹林で竹の子掘り



周囲では宅地開発が進んでいます



ミズバショウの花と苞(ほう)

四月の下旬に福島の高原に行つた。東京は春の陽気で時には汗ばむほどののに磐梯山はじめ吾妻連峰の山々にはまだたくさん雪が残っていた。磐梯吾妻スカイラインはまさに雪の回廊だった。

峠にある「道の駅」のすぐ隣に二車線の広い道路があり脇に階段があった。下に一分ほど降りると緑の芯に白い三角形の布を巻いたような花が見えてきた。ミスバショウだ。赤松に囲まれた湿地帯の中で四く五か所の群落があった。車の行きかう音が聞こえるところに水芭蕉が咲いていることに驚いた。翌日の早朝には雪がふつていた。(木場)

雑記帳

新会員の仲間募集

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの希少種調査など、会員として一緒に活動しませんか？

場所：稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会
入会申込先：NPO南山の自然を守り育てる会
事務局：梁川(やながわ)携帯090-6658-7611
メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない！！ でも少しは会に貢献したい！！ そんな会員の方はおられませんか？ 私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか？ 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 小部